

「私学は切磋琢磨の時代へ」

校長 家宇治 輝太朗



今年の福岡地区私立高校の入試制度は、前期試験、後期試験、に分かれた試験でした。2回受験できるかの印象を与えましたが、実は、「前期合格すると、後期受験できない」という但し書きがありました。各私立高校は、前期で定員の何倍も合格させるため、事実上、一校受験でした。私立高校が「一校しか受験できない」となると、私立は必ず合格する高校をめざすこととなります。私立高校に不合格となると、中学浪人は生活指導上の問題から、絶対避けなければならぬからです。そうなると、ランクを下げた公立受験となり、不本意な公立高入学となり、不登校や中退の遠因となります。そこでは、常に公

立優先の思想があります。公私の授業料の格差がある現状ではその傾向は益々拡大します。これは東京、大阪等の大都市と違う官尊民卑思想の強い九州特有の風土が感じられます。私立高校の入試が、「一校合格方式」であるならば、私立高校選びは、「入りたい学校」よりも、「入れる学校」への選択が強くなります。これに対して、本校は少なくとも2校の受験チャンスを与えて、2校合格したらどちらの学校を選ぶかは、受験生、保護者の判断に任せるべきだと主張しているのです。「真の複数受験」が可能になると、各私立高校もつかつかしておれません。より自分の学校に入学手続きをしてもらうために、今まで以上に自分の学校の魅力を高めねばなりません。生徒、保護者の期待に今まで以上に応えなければなりません。受験生、保護者は、私学の建学の精神、教育方針、特色、伝統進学実績等をよく考えて判断することになります。本校の特色は何か。それは一言で言うところ、「元氣ある男子進学校」ということができます。「質実剛健」「明朗闊達」「文武両道」のもと道徳教育に力を注ぐ。保護者や生徒の期待にこたえて、「入りたい大学」への

進路保障の徹底をするということです。他校から負けないということになります。これが私学間の切磋琢磨です。ひいてはこの努力が公立高校とも対峙できる力と発展するのです。要するに本校の主張は、「受験生に複数の受験機会を与えて、「入れる学校」から、「入りたい学校」を選びができるようにすること。私学間の護送船団的な考えを改めて、切磋琢磨することによって私学全体の教育力向上に結びつけること。の2点に集約されます。本校は私学協会福岡地区支部に対して、繰り返し、「前期合格すれば、後期受験できない」という但し書きを削除するように求め、それが受け入れられるならば、本校は私学協会の入試日に従うとしたのです。しかし、受け入れられませんでした。したがってやむなく本校は、前期1月31日(土)、後期2月16日(月)としたのです。

1月31日の前期入試は、募集定員520名に対して、志願者数は、2786名(昨年2026名と昨年より760名の増加となりました。この増加分が他校を併願したと見ています。「受験生、保護者は、本校の主張を歓迎し、支持した」と考えています。入学歩留まりの計算は困難を極めました。入試結果のデータを詳細に分析検討した結果、昨年より47点高い、293点(500点満点)としました。合格者は昨年より290名増やし、不合格者数も昨年より450名増えて、610名となりました。全体として昨年より学力水準の高い受験生が多く、質の高い生徒が多く入学するのではないかと期待しています。修猷館が独自の数学入試問題を検討し始め、修猷・福高等が学区制を撤廃し、福岡県全県下にするとも県教育委員会は検討しているという事でもあります。公立私立共に本格的な切磋琢磨の時代に入ったといえます。

同窓生の皆様のこれまで以上の御支援、御協力をお願い致します。

OHORI HIGH SCHOOL O.B NETWORK

目次

- ・本部からのお知らせ
- ・会報バックナンバー
- ・学校の近況報告
- ・大濠人紹介
- ・掲示板

福岡大学附属大濠高等学校同窓会ホームページ
<http://www.ohsa.jp/>